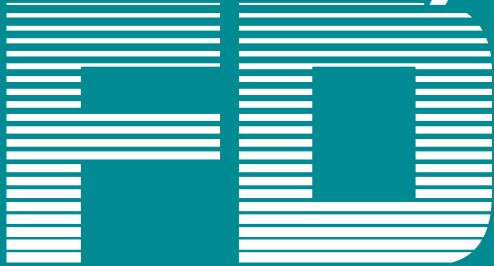


Toyo University



FACULTY DEVELOPMENT

News 第10号

発行／東洋大学FD推進センター

Contents

GPA 制度および全学共通授業評価アンケートの導入にあたって	p.1
全学 新入生アンケートの結果から	pp.2～3
平成 24 年度 TA (ティーチング・アシスタント) FD 研修会	p.4
平成 24 年度新任教員 FD 研修会	p.5
第5回 授業改善シンポジウム ～ToyoNet-ACE を活用した授業改善～	pp.6～7
各学部・研究科における FD 活動	pp.8～10
学外 FD 関連参加レポート ～平成 24 年度 FD 推進ワークショップ (新任専任教員向け) に参加して～	p.10
東洋大学学生 FD 研究チーム活動報告 ～しゃべり場を開催して～	p.11
他大学との交流「関東圏 FD 連絡会」	p.11
東洋大学 FD 推進センター 活動状況報告／活動計画	p.12

GPA 制度および全学共通授業評価アンケートの導入にあたって

副学長・FD 推進センター長 神田 雄一



本年 6 月に文科省より相次いで公表された「大学改革実行プラン」および「社会の期待に応える教育改革の推進」の報告書は我が国が抱えている多くの諸問題に対して、今後目指すべき教育改革の考え方や方針が示されています。そこで述べられている大きなテーマは大学教育の質的転換であります。周知のような社会・経済の構造変化に伴う高等教育の質の問題は大学自身の問題として我々もここ数年来議論を重ねてきているところです。ここでの議論の中心は、「学士力」に求められる教育内容の適切化、シラバスや成績評価にみられる教育の実質化さらに大学評価などによる質保障の問題であり、いずれも喫緊の課題であります。

全学 FD 推進委員会は教員自らが教育について語る「場」としてこれらの問題について議論をしまいいりました。その経緯の中で、GPA 制度並びに全学共通授業評価アンケートの導入を検討し、学長施策の一環として平成 25 年度より全学的な導入をご提案したところです。

GPA (Grade Point Average) は、欧米の大学などでは一般的に使われており、我が国においても成績評価指標として導入する大学が増えております。GPA 導入の大きな目的の一つは、学生の学習意欲の向上にあります。学生が現状の S、A、B、・・・といった成績評価に加えて、学習内容や理解度さらに学習到達度の目安として利用することが出来ます。GPA 値を表示するのみでは実効性が十分ではありませんので、導入に伴う学習指導の仕組みが重要と考えております。例えば各キャンパスに「学びのコンシェルジュ」や「チュータ」がいればきめの細かい学習のアドバイスや指導が可能となります。これにより「単位の量」から「単位の質」への転換が図られ、学生自身の成績の位置付けの把握と学習意欲の向上につなげたいと考えています。全学 FD 推進委員会では GPA 導入に向けたリーフレットの発刊を予定しております。

一方、全学共通授業評価アンケートの導入は、授業の質の改善に役立つ仕組みとして導入します。従来より各学部で授業評価アンケートを実施しておりましたが、必ずしも授業改善や教育改善に繋がっていないのではないかと意見を多くいただいております。アンケートの目的は教員個人の授業改善、教育改善に始まり、各学部・学科や大学として教育の支援や改善をしなければならない事項の把握などに資することです。

全学的に共通のフォーマットで実施することによりフィードバックを一層充実した形で全教員にお戻しすることが可能となります。すでに今春学期には全学 FD 推進委員会委員の先生方の全面的なご協力によりシステムの検証が行われました。秋学期には全学規模に拡大してシステムのトライアルを実施し、25 年度の導入に向けて改善を行いたいと考えております。

本学における新たな仕組みの導入が、真に教育改善や教育の質の向上につながるよう努力したいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

全学 新入生アンケートの結果から

平成 24 年度から、東洋大学では、全学統一の新入生アンケートを実施いたしました。アンケートは、5 月 7 日から 5 月 26 日までの期間で、Toyonet-ACE にて実施し、全新生の 39.6% にあたる 2,733 名から回答をいただきました。

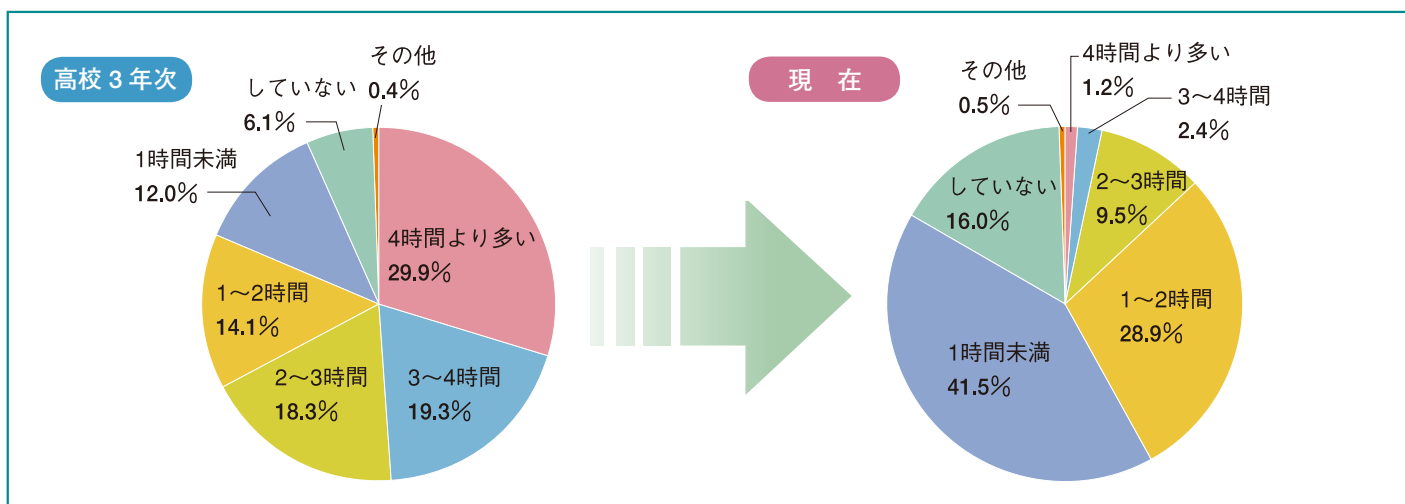
アンケートの趣旨は、新入生に、本学入学の契機や理由等を調査するとともに、新入生が、4 月以降約 1 ヶ月間の、オリエンテーションや大学の授業、学生生活等を経て、大学についてどのように感じているかを調査することを目的としています。

設問は、選択式・記述式を合わせ 18 問設定しましたが、今回はその中でも特に FD に関係する内容を抜粋して報告いたします。

1. 学習時間の推移について

授業以外の 1 日の学習時間について、「高校 3 年次」と「現在」の推移を調査した結果、「4 時間より多い」が 29.9%→1.2%、「3～4 時間」が 19.3%→2.4%、「2～3 時間」が 18.3%→9.5%、「1～2 時間」が 14.1%→28.9%、「1 時間未満」が 12.0%→41.5%、「していない」が 6.1%→16.0%と、全般的に学習時間が激減しています。

〈アンケート画面〉



「1 時間未満」「していない」が全体の 57.5% を占めるということ、また、本アンケートの回収率が 39.6% であり、本学の学習支援システムである Toyonet-ACE で回答を受け付けていることを考慮すると、本学の実情が、大学設置基準の要請である 1 単位 45 時間分の学習時間の確保ができていないことはいまでもなく、文部科学省中央教育審議会大学教育部会 (H23.8.22) で示された「日本の大学生の学習時間」における「授業に関する学習」の平均である「1.0 時間」をすら下回っている可能性があることが危惧されます。

さらに、学生の多くは入学前にそもそも学習の習慣がなかった訳ではなく、受験時には学習の習慣が十分についていたにも関わらず、わずか 1 ヶ月の大学生活の間に学習時間が激減して

いることは、一概に学生側のみの問題ではなく、学生の積極的な学習を促すような各教員の働きかけや、学生の予習・復習を推進するための体制の整備など、大学としてのさらなる働きかけが必要な状況になっていると考えられます。

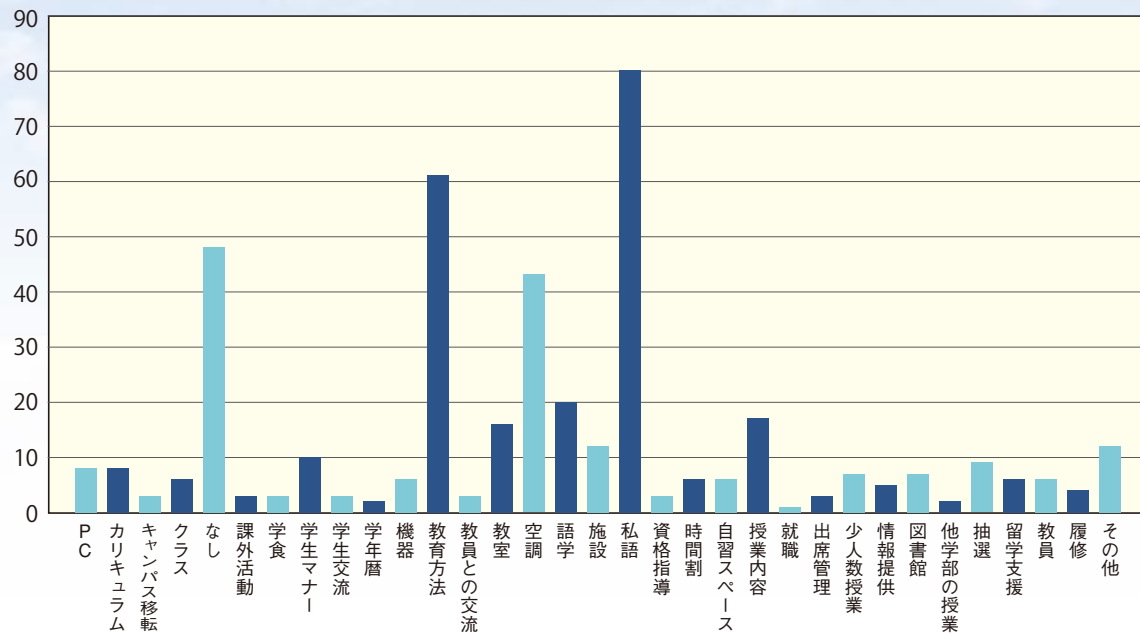
2. 「大学の授業や学習環境について、ご意見、ご要望があれば教えてください。」

この問いについては、429 件の記述が寄せられました。これをカテゴリに分類すると以下のようになります。以下に、カテゴリ別の意見を抜粋いたします。

1) 私語について

「授業中の私語が多い」をはじめとして、「小中高と授業中に私語はせず集中できる環境で勉強してきたのに、大学で意識が低い人が

(件)〈カテゴリ別の記述件数〉



大勢いることに正直がっかりした」「講義内容をよく聞きたいのに授業中私語が多くて聞こえないことがある」「うるさい人が多い。授業に集中できない」「授業中にうるさい人が多いのでイライラする」等、授業中の学生の私語についての意見が最も多くあげられました。

具体的な要望としては、「私語を注意してもらいたい。淡々と進めないでほしい」「先生方の方からも是非ご指導いただけるとありがたいです」「授業中に大声で話して周りに迷惑をかけている生徒を追い出してほしい」等学生は、各担当教員に対して、学生の私語を改善する対応をしてほしいと考えています。

2) 教育方法について

次に多かったのが、教育方法等についてであり、「黒板を使う時、もう少し字をきれいに書いてほしい」「声が小さかったり聞き取りづらかったりする授業がある」「教授はただ前で教科書やプロジェクターの内容を読むだけの授業がある」など教員個人の授業スキルについての要望のほか、「出席確認を行う授業では、確認の方法を統一してほしい」「生徒参加型の授業が少ないです。自分の意見を表現できる授業、意見交換ができる授業を望みます。受け身の講義ばかりな気がします」など授業の運営方法についての要望や、「先生によってわかりやすさに差がすぎる」「必修科目で割り振られた授業によって、宿題の数が変わったりするのは納得いきません」など組織的な対応が必要な要望もありました。

その他にも、授業の内容以前の問題として、「なるべくならば、時間通りに教員も教室に来てほしい」「先生が口頭で伝えた休講情報と、掲示板の休講情報を一致させてほしい」「挨拶を返してくれない教員の方が多いのがとても気になります。手本になりません」など、少数ではありますが、早急な対応が必要な意見も寄せられています。

3. まとめ

本アンケートの結果は、すでに7月20日(金)の学部長会議、7月21日(土)のFD推進委員会において、全学としての報告を行うとともに、8月上旬には、学部ごとのデータを各学部教務担当課に配布しております。上記の内容も、個別に見ますと、学部・キャンパス等でそれぞれ異なった傾向が出ている部分もありますので、是非、

学部・学科のFD活動や、授業その他の改善にご活用ください。

また、本アンケートは、卒業生アンケートとともに次年度以降も継続して実施し、経年変化等もお示ししていく予定です。これらを、学部・学科の各種の取組の成果を検証するきっかけとしてもお役立ていただければ幸いです。

なお、本アンケートで見られた課題である「学生の学習時間」やアクティブ・ラーニングについては、8月28日に文部科学省中央教育審議会より出された最新の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」においても、「求められる学士課程教育の質的転換」「学士課程教育の現状と学修時間」として取り上げられておりますので、併せてご参照ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
(学長室)

新入生アンケートの設問項目

1. 本学に入学するきっかけについてお聞きします。

- (1) 何を通じて、東洋大学および入学した学部・学科を知りましたか。
- (2) いつ頃、東洋大学および入学した学部・学科の受験を意識し出しましたか。
- (3) なぜ、東洋大学および所属学部・学科を志望しましたか。
- (4) 本学の志望順位は何位でしたか。
- (5) 本学への入学をどのように決定したか、お答えください。
- (6) 高校時代は、どのようなことに力を入れて取り組んできましたか。
- (7) 高校3年次、授業以外の、1日あたりの学習時間はどのくらいでしたか。

2. 現在と今後のことをお聞きします。

- (8) 大学の「建学の理念」を知り、共感できましたか。
- (9) 所属学部・学科の教育目標を知り、理解できましたか。
- (10) 履修登録に際し、4年間で授業科目をどのように体系化して履修していくかをイメージできましたか。
- (11) 大学生活で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか。
- (12) 自分の将来のために、4年間でどのような力を身に付けたいですか。
- (13) 現在、授業への出席率はどのくらいですか。
- (14) 現在、授業以外の、1日あたりの学習時間はどのくらいですか。
- (15) 今後、大学に求めたいことはありますか。
- (16) 今後、不安なことはありますか。
- (17) 大学の授業や学習環境について、ご意見・ご要望があれば教えてください。
- (18) 上記のほかに、東洋大学をよりよくするためのご意見・ご要望があれば教えてください。

平成24年度TA (ティーチング・アシスタント) FD研修会

研修部会長 宮原 均

開催日時：平成24年4月14日(土) 14:30～17:00

会場：白山キャンパス6号館6210教室

Program

司会 長谷川 勝久 (文学部准教授)

1. 開催挨拶 神田 雄一 (副学長・FD推進センター長)
2. 講演
 「東洋大学におけるTA制度の目的・役割」 宮原 均 (研修部会長・法学部教授)
 「同時双方向対話型授業とは—これから教壇に立とうとする院生たちへ」... 杉山 憲司 (教務部長・社会学部教授)
 「遠隔授業システムの機能と操作」 青山 敦史 (情報システム課長)
3. グループワーク
4. 発表・質疑応答
5. 総括・閉会挨拶 神田 雄一 (副学長・FD推進センター長)

本年度も、TA (ティーチング・アシスタント) 研修会が4月14日(土)14:30～17:00白山キャンパスにおいて開催された。

TAの業務内容は、小テストの実施・回収や学生からの質問・要望に対応することなどであるが、本学の大学院生が就任することを原則としている。先輩の立場から、親身になって後輩の面倒を見てもらうためであるが、忘れてはならないことは「教えることが学ぶこと」ということである。母校への貢献と自分の研究への一助となることが期待されている。

TA研修会を開催する理由は2つある。ひとつは、お金が介在していることである。労働に対する対価として大学から金銭が支払われるので、その手続および内容において不透明な点やルーズな点がないようにすることである。もう一点は、その業務が、学生の成績評価に関わりをもつことである。もちろん、これについては担当教員が全面的に責任を負うのであるが、TAの指導のあり方によっては学生に不利益をもたらす場合もある。

しかし「何を、どこまで、どのように行うか」を判断することはそれほど容易ではない。担当教員とのコミュニケーションを密にし、その指導に従うことが重要であるが、それぞれの悩みを共有し、解決の糸口を探る場が必要であるということである。

当日は、2部構成になっており、第1部の講演に続いて、第2部においてグループワークがおこなわれた。これは、各研究科混合の8名程度のグループに分け、TAが遭遇しうる事例について討論をし、その内容を発表し、報告書を提出するというものである。アンケートによれば、グループワークが「参考になった」という意見がほとんどである。普段、接する機会の少ない他研究科の院生とディスカッションすることにより、それまで漠然としていた業務内容がつかめ、不安が解消したという意見が多かった。テーマ等で改善点も指摘されているが、成果が上がっていると思われる。



グループワークの様子



全体発表の様子

平成24年度 新任教員FD研修会

研修部会長 宮原 均

開催日時：平成24年6月16日（土） 14：30～19：00

会場：研修会…白山キャンパス6号館6203教室

懇親会…白山キャンパス4号館stellar

対象：平成24年度新任専任教員

本年度の新任教員FD研修会が、6月16日14:00～19:00白山キャンパスにおいて開催された。東洋大学の教壇に立たれて2カ月が経過した新任の先生方から、東洋大学の状況について率直な意見を述べていただき、その上でアドバイス等できたらということである。もっとも、大学から一方的に何かをお伝えし、お願いをするということではなく、諸先生の様々な経験をもとに大学全体のFD活動に貢献していただく、ということに重点が置かれている。

研修会は3部構成になっており、第1部では「東洋大学の風景と教育における実践と課題—大教室授業における苦労と工夫—」について、ミニシンポジウムが行なわれた。理系・文系、男性・女性の5名の教員がパネリストになって議論が展開した。昨年までは、特徴ある講義等を「先輩授業」として紹介してきたが、本年度は日頃大教室の授業に工夫を凝らしている先生方に経験談を語っていただき、それをもとに改善策等を考える、という内容になった。

第2部は、東洋大学学生FD研究チームの報告がなされた。FDは教職員の立場から問題をとらえがちであるが、学生の視点を大事にしたいということで本年度からプログラムに取り込まれた。非常に真摯に取り組んでおり好評であった。

第3部ではグループディスカッションが行われた。各学部混合で5つのグループに分かれ、FD委員がファシリテータになり、議長と書記を選出し、討論後、全体で発表・質疑応答を行い、報告書を提出した。テーマは、特に固定しなかったが、各グループともミニシンポジウムで話題になった事柄を中心に議論がなされた。

内容は、①授業方法の工夫として、リアクションペーパー・小レポート・ミニテストの実施方法、板書とパワーポイントの長・短所、②学生のマナーに関して、全学統一のルールとその徹底の必要性が指摘された。③学生の就職問題について、ゼミのあり方や教員の意識を改革することの重要性が議論された。④学生の私語については、特に大教室における対策として参考になる

Program

総司会 宮原 均（法学部教授）

1. 開会挨拶 …… 学長 竹村 牧男（文学部教授）

2. 講演 「東洋大学におけるFDの取り組み」

……FD推進センター長 神田 雄一（副学長・理工学部教授）

3. 研修会

●第1部 ミニシンポジウム

「東洋大学の風景と教育における実践と課題—大教室授業における苦労と工夫—」

パネリスト

疋田 聡（経営学部教授）

金子 律子（生命科学部教授）

幸田 浩文（経営学部教授）

高橋 直美（ライフデザイン学部准教授）

松元 明弘（理工学部教授）

●第2部 報告

「学生が望む授業改善、よい授業とは」

……東洋大学学生FD研究チーム

●第3部 グループディスカッション

4. 総括・閉会挨拶…授業改善対策部会長 堀口 文男

（総合情報学部教授）

5. 懇親会

意見が多く出された。私語は、授業の難易度、学生の興味、カリキュラム、施設等複合的な原因があるので、総合的な改善策が必要であると同時に、担当教員の私語を許さないという毅然とした態度も重要であるとの意見が出された。



第3部 グループディスカッションの様子

最後に、来年度に向け、出席者をできるだけ増やすこと、ミニシンポジウムの討論の充実を挙げたい。



第1部 ミニシンポジウムの様子



全体発表の様子

第5回 授業改善事例シンポジウム ～ToyoNet-ACEを活用した授業改善～

授業改善対策部会長 堀口 文男

開催日時：平成24年7月21日（土） 14：00～17：05（懇談会17：20～18：00）

会場：研修会…白山キャンパス6号館6203教室 懇談会…白山キャンパス3号館 第2会議室 対象：本学教職員（公開）

Program 司会 堀口 文男（総合情報学部教授）

1. 開催挨拶 …… 学長 竹村 牧男（文学部教授）

2. 事例発表

①「手書きレポートの処理と公平な評価の実践」
…………… 小山 信也先生（理工学部教授）

②「授業改善事例
～授業補完としてのToyoNet-ACE～」
…………… 河地 修先生（文学部教授）

3. 講演

「使い勝手や工夫などの紹介」
※学内の各種情報システムについても紹介
…………… 藤原 喜仁（情報システム課主任）

4. 総括・閉会挨拶…神田 雄一（FD推進センター長・副学長）

5. 懇談会

今回は前回のスマートフォンの活用事例や manaba を利用した授業事例などに引き続き、「ToyoNet-ACE を活用した授業改善」をテーマに行いました。

はじめに、理工学部の小山信也先生より、「手書きレポートの処理と公平な評価の実践」と題して、数学の演習の授業で、手書きレポートに連番をつけた用紙を配り、最前列に学生を集める工夫や、きめ細かい採点やコメントを付け、解説することで学生に興味を持たせる工夫など、大変参考になるお話をしていただきました。つぎに、文学部の河地 修先生より「授業補完としてのToyoNet-ACE」と題して、事前学習や事後学習を行わせることで、授業時間内ではできないことを補完したり、ゼミでの質疑応答を記録し掲載することでより深く学習することができるようになるなど、ToyoNet-ACE を実演しながら解説いただきました。

講演では、情報システム課主任の藤原喜仁さんより ToyoNet-ACE の利用率が増加していることや将来への改善予定の説明、各キャンパスでの説明会の随時開催などが述べられました。

参加者からも大変参考になったとのこと意見が寄せられています。ビデオ配信も行われておりますので、視聴をご希望の方はFD推進支援室までご連絡ください。

授業補完としてのToyo-Net ACE

文学部日本文学文化学科 河地 修

なぜ“ToyoNet-ACE”か？

なぜ私は“ToyoNet-ACE”を使うのか、それは、90分授業での限界を思うからである。以下の4点について、私なりの課題の克服があった。

- a. 講義の授業時間内のアクシデント（時間不足・説明不足）
- b. 学期末の試験による理解度の確認
- c. 演習（ゼミ）の質疑応答のあり方（参加と不参加）
- d. その他の広報・連絡ツールとして

aについて

元来授業中に余談脱線の多い私なのだが、やはり伝えるべきことは伝えなければならない。つまり、毎年成績評価のころには忸怩たる思いになるのだ。しかし余談脱線は、対面授業の大きな魅力でもあり、どうしても、原稿を読み上げるようなわけにはいかない。そこで、授業補完として、私は、従来「個人ホームページ」を活用してきたが、なんと、授業科目のホームページがあったのだ。すなわち、“ToyoNet-ACE”である。履修者だけへの発信であり、授業の延長・補完として、気楽に発信できることが大きな魅力である（一般のホームページではこうはいかない）。さらに、授業中に写すだけの写真資料等を、“ToyoNet-ACE”内に置くことで、事後学習として長く提供することが可能となった。さらに、「個人ホームページ」の更新情報も連絡でき、一般を対象としたレベルにも、学生を誘導しやすくなった。

bについて

学期末の試験をやってみて、どうしてこういう結果になるのか、と愕然とすることが多い。そこで、確実に事後学習を課すことが、到達目標をクリアさせることにつながるのではないか。すなわち、理解度確認のための「小テスト」の実施である。「再テスト」「再々テスト」として受験してもらい、最低限の教育の質保証につなげることが可能となった。

cについて

演習（ゼミ）は、発表者のプレゼンに対して質疑応答を行う形式である。私のゼミでは比較的これが活発に行われていたが、これをさらに記録・報告として残し、“ToyoNet-ACE”にアップする方法を取っている。2、3人の班を結成し、協働して質疑内容を考え、発問者と記録者として役割分担をさせ、質疑応答の内容、得られた結果などをまとめてもらっている。これにより、ゼミへの集中力が生まれ、さらに事後学習が実行できるようになった。

dについて

その他の広報・連絡ツールとして、確実に周知することができる。特に、アクセス状況が一目瞭然であり、授業・教室外でのコミュニケーション指導として、大きな力を発揮している。



手書きレポートの処理と公平な評価の実践

理工学部生体医工学科 小山 信也

本事例では、ToyoNet-ACE を用いた表記の 2 点

手書きレポートの処理

公平な評価の実践 の実現に向けた試みを紹介する。

1. 手書きレポートの処理

私は理工学部で数学の講義を担当している。数学の講義においては、数式の記述は必須である。数式の中でも分数や指数や積分など複雑なものになると、字の大きさや印字の位置が多様になり、ワードのような通常のワープロソフトでレポートを作成することは極めて困難になる。ToyoNet-ACE で電子的にレポートを作成・回収しようと思っても、レポートがワープロで打てないからうまくいかない。本来ならば計算機に強いはずの理工系で、これまで ToyoNet-ACE の利用が今一つの伸びていない原因はここにある。また、大学の 1 年生、2 年生の一般教養科目の数学においては、リテラシー（理系の基本的読み書き）の教育が重要である。実際に学生が数式を手書きし、教員が一本一本の数式の書き方に関して指導をすることは、数学基礎教育における最重要事項であるといつて過言でない。さらに、近年では、文系においても、インターネット上の文章をコピーしたり、他人のレポートをコピーしてレポートファイルを作成したりする例も多いことから、手書きレポートの利用が再認識されているという。

私は、以上の理由から、手書きレポートをスキャンしたスキャンファイルを ToyoNet-ACE 上で回収する方法を、過去 2 年間、担当する全科目で実施してきた。実施手順は以下の通りである。

- ①授業開始時に答案用紙を配布し、授業の後半に演習の時間を設け、課題を解かせる。
- ②解き残した分を宿題にする。次週の授業の前々日を締切とし ToyoNet-ACE 上で提出。
- ③次週の授業前に採点を ToyoNet-ACE 上にアップする。
- ④授業時に宿題の結果についてフィードバックする。必要に応じ、提出されたレポートの画像を切り取り、授業時にスクリーン上で講評して利用する。

このようにすることで、手書きレポートのファイル化と、数式を含む手書きレポートの処理が可能となり、とくにリテラシーの教育に役立てることができた。

この方法は、数式だけでなく、図面やイラストを含むレポートなど、従来 ToyoNet-ACE にそぐわないと考えられてきた分野にも応用可能である。また、コピーによる不正を防止するために手書きを課す場合なども、ここに述べた方法が有効となる。

2. 公平な評価の実践

ここでいう評価とは平常点の評価である。公平な平常点の評価を行うことは、特に一般教養科目のような、学生が必修で履修する科目において重要である。なぜなら、彼らは自分の専門的興味のない科目を、必修だからという理由で、いわば「しかたなく」履修しているわけであり、唯一の報酬が正当な評価を得ることである学生も多いからである。公平な評価を実施しなければ、多くの学生がやる気を失ってし



まうであろう。

そして、ここで主張する公平な評価とは、単に出席を毎回取るということではない。出席の定義が問題である。出席が、単に授業の教室にいたことであるとすれば、最前列で真剣に聞いている学生と、最後列で居眠りをしている学生が同じ出席点を得ることになる。これほど不公平なことはない。真剣に臨んでいる者を高く評価し、そうでない者を低く評価するべきである。そうしたきめ細かな評価を実践することが学生のモチベーションを保つうえで有効である。

そこで私が採用した方法は、課題の答案用紙に番号を印字することであった。同じ番号は 1 名しかいないから、欠席者が出席者の用紙をコピーできなくなり、答案用紙を持っていることが出席の証明となる。さらに、私は用紙を配布する際、教室の最前列から後列に行くにつれ番号が大きくなるように配布した。こうすることで、若い番号の答案用紙ほど前方に座っている学生であるという目安を得た。そして、それを学生にあらかじめ公表し、平常点を付けるうえでの履修者の真剣度を測る一つの目安として、座っている位置、すなわち番号の大小を観察すると授業で宣言した。

番号を付けて管理するというと、とかく非人間的な印象がある。私もこの方法をとった時、当初はそのような心配を少し感じた。しかし、実際にやってみると、結果はまさに逆であった。番号を付けて把握することにより、学生たちは「先生は私がどこに座るかを見ていてくれる」「真剣にやっている人とそうでない人を区別して評価してくれる」と信頼してくれるようになり、全員が前方に教卓を取り囲むように座るようになり、後方に座って形式だけの出席をする者が皆無になったのである。

考えてみれば当然だが、努力しない学生の多くは、大人数の中に埋もれて「どうせばれないから」怠けるのであり、仮に教員ときめ細かな意志の疎通があれば（たとえばマンツーマン指導ならば）面と向かって怠ける者は少ない。答案用紙に番号を付け前から配ることにより、そうした細やかな意志疎通の状態に近づくことができたと感じている。

●学生の評価

この方法を実践するに当たり、スキャナーを使うという余計なひと手間を学生に強いることの是非について、自省を重ねた。幸い、学生たちの間でこの方法は非常に好評であり、2012 年 6 月に実施したアンケートでは、スキャナーを使ったレポート提出・回収を「続けてほしい」という学生が 84% で、「やめてほしい」の 16% を大きく上回った。

各学部・研究科におけるFD活動

第1回FD講演会「アメリカにおけるGPAの活用」

文学部 助教 時田 朋子

平成24年5月25日、白山キャンパスにおいて、第1回FD講演会が開催された。講師に、ニュージャージー州立モンクトレア大学准教授エリック・ジェーコブソン先生をお迎えし、「GPAを学生の学習指導にどのように活かすことができるか」をテーマにご講演いただいた。

GPAとは、各授業科目の成績評価を点数化し、その合計点を総取得単位数で割り出した点数のことである。アメリカの多くの大学では、成績評価にGPAを用いている。

講演の前半では、モンクトレア大学におけるGPAの活用について説明がなされた。同大学では、GPAを大学および大学院入学の選考に活用している。また、学生に一定水準以上の成績を維持させるために活用する。具体的には、GPAが高い学生は優等生名簿に掲載され表彰される一方、GPAが低い学生は教職員との面接を行ったうえで、必要な学業支援を受ける。GPAが低い状況が2学期間続くと停学になり、その後復学しても同じ学科に戻れるとは限らず、さらに復学して再びGPAが低い場合は退学となる。

講演の後半では、GPAを成績評価に使用する利点と問題点が示された。利点として、GPAが学生の一般教養能力、専門分野の能力、学習能力、読み書き能力を端的に示すため効率的な成績評価ができること、また、必要に応じた学生の支援を行うことができることなどが挙げられた。問題点としては、GPAは単なる数値であるため形成的評価がなされず学習に還元されないこと、GPAが高い学生が総合試験などで優秀な成績を収めるとは限らずGPAは予測的でないこと、学生が授業内容よりもGPAを高くすることを念頭に授業を選択することなどが挙げられた。

ジェーコブソン先生はご自身の経験を交えながら、GPAについてわかりやすくご講演くださった。また、活発な質疑応答が行われ、出席された教職員のGPAに対する高い関心がうかがわれた。

経営学部における英語教育 ～授業公開等のFD活動の紹介～

経営学部 准教授 鈴木 明夫

ここでは、経営学部の学部内委員会の一つとして設置されているGBC委員会が行っているFD活動の取り組みをご紹介します。GBCとはGlobal Business Communicationを指し、経営学部のコースの一つとして2010年度からGBCコースがスタートしました。GBC委員会はこのGBCコースを運営する委員会です。GBCコースは、ビジネスが国際化・グローバル化・ボーダレス化する中で、英語を中心とする外国語をツールとして使いこなす国際的な人物を育成することを教育目標として掲げています。

この教育目的を達成するために、GBC委員会の中にFD活動を促進するワーキンググループが設置されています。2012年度に実施したFD活動の一つとして教員同士の授業観察があります。

教員同士の授業観察はGBCコースの4名の教員が、他学部も含めて一般教員に授業を公開し、相互にどのような授業が行われているのかを知る目的で行われました。今年度の春学期は経営学科の中鉢教授と井上教授とウィーバー准教授、会計ファイナンス学科の鈴木准教授の4名が6月18日から6月23日にかけて公開授業を行いました(写真参照▶)。

この授業公開は経営学部のみならず、ガールーンを通じて東洋大学の全教員に対して授業を公開する旨の告知をしていました。教員相互の授業観察から得られることは、学習者の視点に立って授業を経験すること、この経験に基づいて自らの教授法を改善することにあります。従って、授業観察を行った教員は公開授業を行った教員に対して授業の感想をフィードバックすることのみならず、自己の授業を省察することが求められます。また、このように授業を公開することで、他の教員がどのように授業を行っているかを知ることができます。こうしたFD活動の取り組みは2012年度秋学期以降も継続的に行っていきます。



ライフデザイン学部におけるFD活動 ～学生との意見交換会の実施～

FD 推進委員会委員 高橋 直美

ライフデザイン学部は恒例の「学生との意見交換会」を6月27日（水）12時20分から朝霞キャンパス講義棟1階第2会議室で行った。

参加者は学生約30名、学部長、各学科（専攻）主任、FD推進委員・自己点検評価検討委員、各学科（専攻）の教員、朝霞事務課・FD推進支援室の各職員である。

この会は平成21年11月25日、平成22年6月16日、平成22年12月8日、平成23年6月22日、平成23年12月21日にも開催され、今回で6回目を数える。学生の参加者も多く、毎回有意義な意見交換が行われている。

この会で提出された学生からの意見は可能な限り速やかに対処され、検討事項は各学科（専攻）に持ち帰って話し合いが行われている。

今回の意見交換会では、食堂地下の空きスペースの有効活用やPCに関するもの等施設設備への意見から、学びLIVE・オープンキャンパス等入試イベント行事でアルバイトをしている学生の、「教員の話は大学生向けの内容で難しく、高校生のリアクションが薄いように感じるので検討してほしい」というような大学行事への積極的な意見まで



幅広く議論され、学生の大学に対する意識の高さがうかがえた。

また、「大教室の後方に座る学生を制限できないか」「授業中にスマートフォンを使う学生が気になる」「情報棟の授業で飲食が目立つ」「机上の飲み物や菓子はよくない」「校舎内での携帯電話等の充電は、法令に触れるのではないかなど学習環境に関する意見が多く、「教員からはっきり注意してほしい。教員により判断が違う場合がある」と教職員側の統一した見解を求めるものや、ルールの制定等の必要性を述べる学生が目立っていた。

上記以外のものでは「3学科の交流の場がない」という意見もあり、充実した学生生活を希望する学生の声を聞くこともできた。

ライフデザイン学部では今後も学生の声を聞きながら、教育・環境の更なる充実を目指す所存である。



社会学部におけるFD活動 ～GPA勉強会と新任教員研修会の実施～

FD推進委員会委員 王 亜新

社会学部は平成24年度FD推進活動の一環として春学期において以下の行事を行った。

1. GPA研修会

平成25年度から全学的にGPA制度の導入が予定されているが、それに関する十分な知識を学部全教員が共有するために、7月2日(月)教授会後に学長室高橋清隆室長による「本学におけるGPA導入について」を題としたGPA勉強会が開催された。高橋室長からはGPA導入の背景、文部科学省の対応、成績評価とGPAの関係、本学がGPAを導入する理由・構想および活用などについて詳細な説明がなされ、その後、質疑応答が行われた。この勉強会を通じてGPA制度に関するいくつかの疑問点を確認することができ、来年度からスムーズな導入にそなえ認識を一致させることができた。

2. 社会学部第2回新任教員研修会

平成24年7月28日(土)～29日(日)に、東洋大学熱海研修センターで第2回新任教員研修会が開催された。参加者は、新任教員4名を始め教員16名と職員3名の計19名となり、学部および大学の現状と展望について積極的な議論と意見交換が行われた。

初日開会後、新任教員より着任後の感想や多人数授業への対応法、ゼミや調査実習等科目が抱えている問題点について語られた。その後、青木学部長より『「セメスター制度」への階梯と課題——学生・教員・職員視点の統合化を目指して——』を題とした問題提起がな

れ、①学部教育の理念と当面の課題、②セメスター制度の教育・社会的メリット、③セメスター制運用における問題点、④学生・教員・職員視点からの制度の意味と課題などの項目に分けて問題点が提示され、それについて参加者全員が活発な議論を行った。

翌29日は、杉山憲司教務部長より「東洋大学のFDの現状と課題」をテーマに学部および大学が置かれた現状と取り組みについて説明が行われた。説明は①人権・ハラスメント関連、②発達障害への支援関連、③ToyoNet-ACEの機能追加、④GPA制度の導入、⑤各種アンケートの運用等の方面に及び、それについて全員で議論を行った。

今回の研修会を通じて、学部および大学の現状と問題点、特にセメスター制導入に関わる学部の課題等について問題意識を共有することができ、今後の改善方向について積極的な議論ができた。また夕食会と懇談を通じて、教職員間の親睦をはかることができた。



学外FD関連研修会参加レポート

～平成24年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に参加して～

生命科学部応用生物科学科 三浦 健

8月8、9日、浜松において開催された「FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)」に参加した。まず、1日目、全体説明後、昨年、参加した3名によるパネルディスカッションが行われた。その後、グループ討議、模擬授業(15分間)の概要作成を行い、懇親会でさらに意見交換が行われた。2日目、このワークショップのメインイベントである模擬授業を行った。その授業に対して、学生の立場に立ち「良い点と改善点(アイデア)」をグループメンバーで意見交換した。

今回、私のグループは音楽学部、看護学部、システム理工学部、仏教学部、経営学部そして生命科学部の6名で構成され、「モチベーション(上げ方、継続、主体性)」「授業のレベル設定(学生層の多様化)」「FD(教員同士のコミュニケーション、画一化)」を討議した。その中で3つのキーワードが見つかった。その1つ目は「コミュニケーション」である。学生への声掛け(挨拶)をすることで、学生の変化を観察、「一人ではない!自分も授業に参加している!」という安心感をあたえること。教員同士による学生に対する意見・情報交換、そして学科プログラムのどの位置に自分の科目があるかを理解しつつ関連科目と連携することなどである。2つ目は「ルールの明確化」である。

初回の授業時に「授業ルール」を必ず配布して、最後までブレないこと。できる学生に対して、授業中に復習を行う理由を明らかにすることなどである。そして3つ目は「目標設定」である。学生の学力レベルは様々であり、どのレベルに合わせるか明らかにならなかった。しかし、全学生のレベルに対応できる方法として、初回の授業時にアンケートで、「自分の目標」を書かせ、途中で確認させる。そして、最終的に目標に達成できたかを確認・認識させる。またレポートを課す際、自由テーマを与えることやチャレンジャー用の問題を用意すること。その際の評価(フィードバック)を明らかにすることなどである。しかし、今回の討論の中で、最も重要なものの一つにFDによって、教員、学生が画一化してはいけない。しっかりと大学の特徴および個性を大切にすべきだという考えだ。

今回、模擬授業を通し、15分という短い時間にホワイトボード(2枚)のみで、それぞれ、他分野のメンバー(学生役)に理解させるために「専門分野を身近なものに感じさせること」を全員が意識を持って行っていた。

最後に、今回の最大の収穫は、新しく5名の仲間ができたことである。

東洋大学学生FD研究チーム活動報告

～しゃべり場を開催して～

文学部教育学科 3 年 原田 鈴彦
文学部教育学科 4 年 曾根 健吾

学生 FD 研究チームでは、2012 年度の春学期は主として「しゃべり場」の企画・開催に取り組んだ。「しゃべり場」は、学生間と学生、教職員間の交流だけでなく、学生の声や思いを集めて学生の視点を生かした FD 活動をすすめることを目的としている。

本年度は 4 月 12 日、13 日の昼休みを利用し「ミニしゃべり場」を、4 月 20 日の 6 限には 90 分間の「新入生向けしゃべり場」を開催した。新入生を対象として「有意義で楽しい学生生活を送るには」というテーマのもと、授業についての不安やわからないこと、大学に入って楽しみなサークル活動など、参加した新入生とともに上級生や教職員が一緒に考え、自由に話す場となった。

6 月 27 日には朝霞キャンパスを訪問し、チームの活動としては初めて他キャンパスでのしゃべり場を開催した。学部、学科やキャンパスごとに異なる事情はあるが、共通する大学での学習意識や課題・問題点を見出し、解決方法を探っていくという非常に有意義な時間となった。



「2012 年度 第 3 回しゃべり場」の様子

7 月 4 日、12 日は白山キャンパスにて「春学期の振り返り」と「試験、成績評価について考えよう」をテーマに、しゃべり場を開催した。参加学生は 1 年生から 4 年生まで幅広く、「レポートに講評をつけて返してほしい」など成績評価についてのコメントが多数寄せられた。他にも、教職員も交え就職活動のアドバイスやゼミの活動について意見交換をするなど、話題も多岐にわたった。

しゃべり場の開催は、本学の学生 FD 活動における中心的な活動である。学生、教員、職員がざくばらんに話し合うことが出来る数少ない場なので、今後も力を注ぎ、さらに改良を重ねて継続していきたいと考えている。

また、設立 2 年目を迎える関東圏 FD 学生連絡会では、東洋大学からも新しい学生 FD スタッフを迎え、他大学との交流や情報交換も活発に行っている。本学における FD 活動全体の充実と推進に貢献する一助になるべく、大学教育の質向上を目指し、今後も学生の力を合わせて、取り組んでいきたい。



「新入生向けしゃべり場」の様子

他大学との交流「関東圏 FD 連絡会」

平成 21 年度より青山学院大学、法政大学、立教大学、東洋大学の FD 担当者が集まり、同規模の私立大学が抱える FD 活動の問題解決と情報収集を目的とした意見交換会を開催しております。昨年度より新たに学生 FD スタッフも各大学から集まり、学生も交えた FD 活動を推進しています。

第 9 回

日 時：2012 年 5 月 30 日(水) 16:00 ～ 17:30

場 所：立教大学 池袋キャンパス
ライフスナイダー館 1 階

参加者：青山学院大学、法政大学、立教大学、
東洋大学の FD 担当者 計 14 名

概 要：①各大学における FD 活動状況報告
②「関東圏 FD 学生連絡会」の活動状況について

「2012 年度関東圏 FD 学生フォーラム ～受けたくなる、よい授業とは？～」開催

日 時：2012 年 9 月 17 日(月・祝) 10:30 ～ 17:00 (10:00 ～受付)

場 所：東洋大学 白山キャンパス(メイン会場:6 号館 2 階 6204 教室)

主 催：関東圏 FD 学生連絡会
(法政・東洋・青山学院・立教大学 学生 FD スタッフ)

共 催：関東圏 FD 連絡会

本フォーラムは、関東圏(法政大学・東洋大学・青山学院大学・立教大学)の学生 FD スタッフが主催する学生企画です。「受けたくなる、よい授業とは何か」をテーマに、先生による授業紹介やグループワークを通して考え、新たな授業改善のアイディアを導き出します。

平成24年度 東洋大学FD推進センター 活動状況報告

平成24年3月～平成24年8月

FD推進委員会

◆第1回

●開催日時：平成24年4月28日(土)10:00～12:20

報告1 各分会活動状況報告

報告2 センター長報告 ① 本学の学生FD活動状況について

審議1 大学院部会長の選出及び交代された委員の各分会への配属について

審議2 平成24年度新任教員FD研修会の開催について

審議3 平成24年度FD推進センターの活動計画および活動スケジュールについて

協議1 GPA制度の導入に伴う各学部での検討状況について

協議2 全学共通の授業評価アンケートの試行について

◆第2回

●開催日時：平成24年5月26日(土)10:00～12:00

報告1 各分会活動状況報告

報告2 センター長報告 ① GPA講演会

② TOEIC指導者向けワークショップの開催について

審議1 平成24年度新任教員FD研修会の開催プログラムについて

審議2 第4回授業改善事例シンポジウムの開催について

協議1 GPA制度の導入に伴う各学部での検討状況について

◆第3回

●開催日時：平成24年7月21日(土)12:00～13:50

報告1 各分会活動状況報告

報告2 センター長報告 ① 平成24年度第1回関東圏FD連絡会

② 学生FD研究チーム「しゃべり場」の開催

③ TOEIC指導者向けワークショップの開催について

④ 携帯電話・スマートフォンを利用した

出席管理システムの導入について

⑤ 卒業生アンケートと新入生アンケートの結果について

審議1 平成24年度一般教員FD研修会の開催について

協議1 GPA制度の導入について

協議2 授業評価アンケートの運用について

部会長会議

◆第1回

●開催日時：平成24年6月16日(土)12:50～14:00

審議1 各分会の活動状況報告

審議2 GPA制度の導入・運用について

審議3 全学共通の授業評価アンケートについて

審議4 平成24年度FD推進センター活動計画について

研修部会

◆第1回

●開催日時：平成24年4月28日(土)12:00～13:00

議題1 新任教員研修実施案の作成

授業改善対策部会

◆第1回

●開催日時：平成24年4月28日(土)12:00～12:30

議題1 第5回授業改善事例シンポジウムについて

◆第2回(メール会議)

●開催日時：平成24年4月30日～5月22日(土)

議題1 第5回授業改善事例シンポジウムについて

授業評価手法検討部会

◆第1回

●開催日時：平成24年4月21日(土)10:00～11:00

報告1 平成24年度 授業評価アンケートの試行について

◆第2回

●開催日時：平成24年7月2日(土)11:00～12:30

審議1 授業フィードバックアンケートの全学共通項目の検討

編集部会

◆第1回

●開催日時：平成24年6月30日(土)10:40～12:10

議題1 FDニュース第10号ならびに11号の刊行について

議題2 平成23-24年度FD推進センター活動報告書の刊行について

議題3 GPA活用の手引き(リーフレット)の刊行について

学内公開活動

平成24年度ティーチング・アシスタント FD(Faculty Development)研修会

●開催日時：平成24年4月14日(土)14:30～17:00

●会場：白山キャンパス 6号館 6210教室

●参加対象：平成24年度春学期採用のTA

●参加人数：約70名

(欠席者はワークシートに取組み、録画映像を視聴しアンケートに回答)

平成24年度新任教員FD研修会

●開催日時：平成24年6月16日(土)14:30～19:00

●会場：白山キャンパス 6号館 6203教室

●参加対象：平成24年度新任専任教員(非常勤講師は自由参加)

●参加人数：約30名

第5回授業改善事例シンポジウム

●開催日時：平成24年7月21日(土)14:00～17:00

●会場：白山キャンパス 6203教室

●内容：ToyoNet-ACEを活用した授業改善

●参加対象：教職員(公開)

●参加人数：約50名

平成24年度 東洋大学FD推進センター活動計画

(平成24年9月～平成25年2月)

平成24年度TOEIC指導者向けワークショップ

●開催日時：平成24年9月19日(水)10:00～18:00

●会場：白山キャンパス 6号館 第3会議室

平成24年度一般教員FD研修会

●開催日時：平成24年10月19日(金)18:30～20:00

●会場：白山キャンパス 5号館(5B12教室)

●講師：鈴木典比古氏(社)大学基準協会専務理事、前国際基督教大学学長)

●内容：グローバル化下における大学教育の質保証

平成24年度学部FD活動状況報告会

●開催日時：平成24年12月(日に未定)

●会場：白山キャンパス 6号館(教室未定)